



失われた30年とそれらが与えた変化

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

失われた30年において世界は革命的变化を行ったのである。これが日本の没落の真実である。日本はこの時社会転換を得たのであり、それは誤りでないを考える。

これらは、IoT から始まる新しい社会と生活への変化が存在するのである。アメリカの今日の現実はずべてこれである。

これらは産業の転換を有し、新しい基準における変化を要求する。これらは新しい現実が存在するのである。

日本において失われた30年は、既存社会と価値観が崩壊し、新しい現実を生んだと考える。これらは革命的变化であるが世界とは異なるのである。

社会の停滞性は内部において社会転換を行ったと考える。これら変化は必ず未来という現実への対応として誤りでないを考えるものである。

産業は今日新しい現実を有する。これらは既存性でない新しい現実であり、これらは世界における変化への対応である。国内においては自己社会における独自基準と現実が存在するのである。

これらは、独自社会と生活が存在し、産業は国内市場においてこれら現実への対応を有するのである。

これら独自社会はとてもユニークである。まさにユニークであることは、それがどのの文明や文化とも相違するからである。これにおいて留意すべきことは、独自社会と基準が存在し、生活の充足が自己社会において可能であるという現実なのである。これにおいて失われた30年は、自己社会と現実への転換と創造である事は真実であるとする。

これら自己社会という現実はその自己のルーツと未来という探究と模索である事は産業が自己転換を模索することと等しいのである。